



アジアで躍進する IHI グループへ ～地域密着型グローバル企業への変革～

執行役員 アジア総支配人
村井 一郎

躍進するアジア経済の中で

シンガポールにアジア総支配人として着任した2009年7月ごろ、域内各国は、マレーシア、タイなどではリーマンショックの影響を受けたものの、インド、インドネシア、ベトナムなど内需主導の国々はプラス成長を維持し、まさに「元気なアジア」を実感するものでした。域内各国は2010年秋にはリーマンショック前の状態に復活し、今後さらなる経済発展が期待されます。

このような環境下、ターゲット地域にフィットする仕様・価格・サービスの変革を推進し、アジアで躍進するIHIグループとなることが強く求められています。

IHIグループとしてのアジア戦略

「グローバル化」という言葉が無かった1960年代から、当社は海外で造船所やプラント事業の現地法人

を経営する国際化の先進企業と呼ばれていました。

(1) 先人の偉業 ジュロン・シップヤード(JSL)

1962年3月にシンガポール政府から造船所設立の要請を受けた当社は、フィージビリティスタディ実施を経て10ヶ月後の1963年1月30日シンガポール経済開発局と造船所設立の基本契約を交わしました。

JSL設立は1963年4月25日。同社はその後順調に発展しシンガポール優良企業の一つとなっています。JSLの陸上部門を独立させ設立したJEL(Jurong Engineering Ltd.)、JSLへの設計支援などを目的として設立したIMES(IHI Marine Engineering Private Ltd.)もアジアを中心に活躍しており、「JSL設立の決断」「すばやい対応」はIHIグループの志として受け継ぎ、新たな歴史を作りだしたいと思います。

(2) 現在の取り組み

域内主要国では、経済発展に伴いエネルギー、インフラ整備への対応が課題であり、これらに対しグ

ループ全体が連携し案件をフォローしています。シンガポールのみならず、アジア総支配人傘下の東南アジアならびにインドの拠点では、火力発電プラントをはじめ、化学プラント、LNG ターミナル、橋梁、産業機械などアジア各国のインフラと産業基盤の一端を IHI グループは支えてきたと自負しております。アジア地域を戦略的に最も重要な市場として位置付け、この動きを加速するため、地域統括会社の設立を準備中です。

① 経済開発戦略プロジェクトへの参入努力

アジア総合開発計画として「インドネシア経済回廊」、「メコン総合開発」、「デリー・ムンバイ産業大動脈」などが国際協力として計画されています。アジア新興国の社会インフラ開発にとって、前述のとおり IHI グループの豊富な実績とお客さまやパートナーとの強い信頼関係によって、こうした地域開発プロジェクトにも IHI グループは積極的に参画してまいります。

② シンガポール研究開発拠点の構想

シンガポール政府は自国を“Live Laboratory”と称し R&D 拠点を設置することを奨励し、多くの企業が技術開発や社会実験（EV 運用デモなど）を行い、実用化を進めています。IHI グループはシンガポールの企業や政府機関と共同研究や新事業の推進についても積極的に取り組んでおり、シンガポール支店内に技術開発本部のエンジニアを常駐させ、エネ

ギー分野をはじめ研究開発を加速していく考えです。

③ 域内製造拠点のグループ総合活用

域内にはタイに車両用過給機の生産拠点、ベトナムに橋梁工場、インドネシアにボイラ工場など IHI グループのグローバルなビジネス展開の中核となる生産拠点を多数有しています。IHI グループの戦略的重要市場であるアジアでの生産拠点をネットワーク化し、グループ総合力を発揮することを目指しています。もちろん IHI グループ独自の拠点に加え、アジア地域で長年お付き合いをさせて頂いてきた各国のコア・ベンダーをはじめビジネスパートナーとの生産・調達面での相互協力を基盤にして、地域開発プロジェクトの参画など新しいビジネスモデルの構築も進めていきたいと考えています。

まとめ

半世紀前にグローバルなビジネスをスタートさせたシンガポールの地で IHI グループはアジア全域を視野に入れたビジネス展開を開始致しました。シンガポール支店には IHI グループ各社のシンガポール事務所も同居しているほか、技術開発、調達についても専任者が常駐し、シンガポールのみならずアジア各国の拠点とのネットワークによって、お客さまへの価値創造を推し進めて参ります。皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。

